

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職等それぞれの進路へ向けて円滑な活動ができるように、さらに就職後に活躍できる人材になるために、一般常識の学習、業界研究、資格研究、履歴書の書き方、自己PR方法を習得する。
到 達 目 標	1.自己分析をしたうえで、自らの能力、意思について、適切に表現できる。 2.志望する業界、技術動向について、自ら調べることができる。 3.自分の意見を述べることができ、かつ、適切なコミュニケーションをすることができる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介 2 キャリアと仕事へのアプローチ 3 仕事の基本となる8つの意識 4 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 5 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 6 指示の受け方と報告、連絡・相談 7 話し方と聞き方のポイント 8 話し方と聞き方のポイント 9 来客応対と訪問の基本マナー 10 来客応対と訪問の基本マナー 11 会社関係でのつきあい 12 仕事への取り組み方 13 ビジネス文書の基本 14 電話応対 15 統計・データの読み方・まとめ方 16 統計・データの読み方・まとめ方 17 情報収集とメディアの活用 18 情報収集とメディアの活用 19 会社を取り巻く環境と経済の基本 20 JLPT試験対策 21 JLPT試験対策 22 業界研究 23 自己分析 24 自己分析 25 履歴書・エントリーシートの書き方 26 履歴書・エントリーシートの書き方 27 企業説明、就職面接について 28 面接対策 29 面接対策 30 面接対策
成 績 評 価 方 法	1)試験点=70% 2)出席・平常点=30% 授業内の模擬テスト、ロールプレイングの取り組み具合なども考慮。 JLPTなどの検定試験合格時には、加点点評価。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報リテラシー	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・ITパスポート試験が対象としている情報リテラシー及びIOTについて学習する。
到 達 目 標	・ITパスポート試験合格レベルの知識習得を目指す。
教 科 書	
年 間 授 業 計 画	1 表計算ソフトの基本機能 2 セルの参照機能 3 表計算ソフトの関数 4 IF関数の使い方 5 表計算分野の筆記問題演習 6 DBMS(データベース管理システム)の機能 7 排他制御機能 8 データ更新とリカバリ 9 関係データベースの仕組み 10 表設計とフィールドのルール 11 データベースの設計に使うE-R図 12 データ操作に使う演算 13 データベース分野の筆記問題演習 14 前期復習問題演習 15 開発プロジェクトのマネジメント 16 ITサービスの調達 17 IOT 戦略・企画 18 IOT プロジェクトマネジメント 19 IOT 人材育成と企業間連携 20 エネルギー関連のIOT 21 身近なIOT 22 産業界のIOT 23 海外におけるIOTプロジェクト 24 IOT関係の標準規格 25 通信関連の法律 26 製造および航空法に関する法律 27 ライセンス 28 IOT デバイス 29 IOT プラットホーム 30 IOT データ分析
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②平常点=70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報処理概論	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	基本情報技術者試験シラバスv8.0の内容について、講義および問題演習を行う。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格できる力を養う。 ・社会のなかでどのように情報処理が活かされているかを理解する。
教 科 書	令和05年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室(技術評論
年 間 授 業 計 画	1 第1章 コンピュータ構成要素 2 第1章 コンピュータ構成要素 3 第1章 コンピュータ構成要素 4 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 5 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 6 第3章 基礎理論 7 第3章 基礎理論 8 第3章 基礎理論 9 第5章 システム構成要素 10 第5章 システム構成要素 11 第6章 データベース 12 第6章 データベース 13 第6章 データベース 14 前期試験対策 15 前期試験 16 第7章 ネットワーク技術 17 第7章 ネットワーク技術 18 第7章 ネットワーク技術 19 第8章 情報セキュリティ 20 第8章 情報セキュリティ 21 第8章 情報セキュリティ 22 第9章 システム開発技術 23 第9章 システム開発技術 24 第10章 マネジメント系 25 第10章 マネジメント系 26 第11章 ストラテジ系 27 第11章 ストラテジ系 28 第12章 科目B対策 29 後期試験対策 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	受講者の理解や演習の進捗状況により、授業内容や進度を変更することがある。

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報処理概論(演習)	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 柳澤 隆。1978年東海大学工学部原子力工学科卒業。 前職は原子力エンジニアとして、核燃料設計ソフトウェア開発、原子炉設計安全審査解析等の検証に従事。米Texxias A&M大学Turbomachinery laboratoryで回転機械異常振動の研究。 国交省先端技術支援、船舶異常診断技術でAIを使った故障予知システムの開発に従事。		

■授業科目情報

授 業 内 容	IOTの普及による蓄積した膨大なデータを活用し、社会に有益な情報を引き出す新たなテクノロジーである「データサイエンス」を学び、非数値データや画像データをAI機械学習を使って分類・判定する技術習得を通し、データを定量的に把握し理論的解釈ができることで、社会で求められているクリエイティブな人材育成を目指す。
到 達 目 標	・大規模オープンデータを自動処理し可視化する「プログラミング技術」の習得。 ・可視化されたグラフから情報を客観的に読み取るためのデータリテラシーの習得。 ・基本統計量の具体的な意味の理解と、データの真偽を論理的に判断できること。 ・統計解析の結果や自身の判断を分かり易く説明するプレゼンテーションの達成。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 Pythonプログラミングの環境設定 Google Colaboratory使用とプログラム実行確認 2 「プログラミングとは」解説 と 作成練習 3 Pythonプログラム文法の概説 4 条件分岐 ifを使ったプログラム作成の練習 1 5 条件分岐 ifを使ったプログラム作成の練習 2 6 繰り返しを使ったプログラム練習 7 ifと繰り返しの組み合わせを使ったプログラミング 1 8 ifと繰り返しの組み合わせを使ったプログラミング 2 9 オブジェクトプログラム構造の解説 10 DataFrameの説明 11 DataFrame オープンデータ読み込み 12 DataFrame オープンデータ読み込みとデータ加工 13 matplotlibを使ったグラフの作成 1 14 matplotlibを使ったグラフの作成 2 15 seabornを使ったグラフの作成 16 DataFrameを使った統計解析の基礎 17 DataFrameを使った基本統計量の計算 1 18 DataFrameを使った基本統計量の計算 2 19 ソーシャルデータ、オープンデータを使ったデータ解析の実習 1 20 ソーシャルデータ、オープンデータを使ったデータ解析の実習 2 21 データ分析結果のプレゼンテーション 22 機械学習 Scikit-learnの説明 23 機械学習Scikit-learn を使った Classification、Clustering 24 機械学習Scikit-learn を使った Regression(回帰) 25 機械学習Scikit-learnを使ったオープンデータの分析 26 機械学習による分析結果の考察と精度向上 27 機械学習Scikit-learnを使ったデータ分析の演習 1 28 機械学習Scikit-learnを使ったデータ分析の演習 2 29 演習結果のまとめを作成 30 プレゼンテーション実演
成 績 評 価 方 法	各回の講義では、授業内容の理解度確認のための小テストまたは課題を用意し、それらの点数も成績評価に含めます。 評価配分は原則として出席率20%、小テスト(課題提出)と定期試験で80%とし、毎授業の小テストや課題提出も十分考慮し成績評価を行います。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報数学	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	1978年東海大学工学部原子力工学科卒業。 前職は原子力エンジニアとして、核燃料設計ソフトウェア開発、原子炉設計安全審査解析等の検証に従事。米Texxias A&M大学Turbomachinery laboratoryで回転機械異常振動の研究。 国交省先端技術支援、船舶異常診断技術でAIによる故障予知システム開発に従事。		

■授業科目情報

授 業 内 容	基礎数学の知識や解法を学習し、プログラムアルゴリズム構築の基礎を固める。 将来IT関連の技術を学ぶ時に必要となる計算能力と基礎数学の知識を習得する。 データを客観的に分析し論理的に理解するための基礎となる確率と統計学の学習。 身近なソーシャルデータを題材にし、数理的・論理的アプローチを理解する。
到 達 目 標	・数学用語が読め、数学的概念や意味が理解でき、公式を使った計算ができる。 ・数学公式の意味が正しく理解でき、これら公式を使って問題の答えを導き出せる。 ・例題をみて、解法を導出できる。 ・基本統計量を把握し特徴につき考察できる。 ・多種類のグラフから傾向や特徴が読み取ることができる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 授業の目的・概要 数学を学ぼう 2 データからグラフを作る、単位や桁数 3 統計とは？ 度数分布や基本統計量の解説 4 グラフと基本統計量の関係 5 データのばらつき、箱ひげ図の意味 6 データの相関、相関の意味、時系列データの読み方 7 [実習] コンピュータを使ってグラフを描く 8 [実習] コンピュータを使って基本統計量を計算する 9 順列、組み合わせ、事象と確率 10 確率、期待値、ベイズの定理 11 確率変数と確率分布 12 母集団と検定 13 近似、相関分析、回帰分析 14 [実習] コンピュータを使い確率問題を解く 15 [実習] コンピュータを使い相関分析と回帰分析の実習 16 ベクトル、線形代数 17 主成分分析 18 【基礎数学】 n進数 (2進数と16進数) 19 【基礎数学】 集合&補集合、和と積 20 【基礎数学】 順列、組み合わせ 21 【基礎数学】 最短経路問題 22 【基礎数学】 図形1 23 【基礎数学】 図形2 24 【基礎数学】 関数、方程式 25 【基礎数学】 ベクトル、行列 26 【基礎数学】 連立方程式 27 【基礎数学】 指数関数 28 【応用】 グラフ理論 29 【応用】 最適化問題 30 [実習] コンピュータを使ったデータ解析実習
成 績 評 価 方 法	各回の講義では、授業内容の理解度確認のための小テストまたは課題を用意し、それらの点数も成績評価に含めます。 評価の配分は原則として出席率20%、小テスト(課題提出)と定期試験で80%としますが、毎授業の小テストや課題提出を考慮し成績評価を行います。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	アルゴリズム	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	流れ図(フローチャート)を作りながら、代表的なアルゴリズムとデータ構造を学ぶ。
到 達 目 標	・流れ図や疑似言語等を用いて、何等かの問題を解く手順を自ら考えることができる。 ・さまざまなデータ構造(変数、配列、リスト、キュー、スタック、木構造)について理解する。 ・アルゴリズムの制御構造(順次、選択(分岐)、繰り返し)について理解する。 ・代表的な探索、整列、再帰などのアルゴリズムについて理解する。
教 科 書	令和05年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室(技術評論)
年 間 授 業 計 画	1 アルゴリズムとプログラミング、システム開発のライフサイクル 2 流れ図(フローチャート) 3 変数・疑似言語・演算子 4 配列 5 分岐と繰り返し(式の計算、大小比較、入れ替え、合計) 6 分岐と繰り返し(最大値・最小値、数当てゲーム) 7 リスト 8 キュー 9 スタック 10 木構造 11 データの整列(概論) 12 データの探索(概論) 13 アルゴリズムの計算量 14 プログラムの属性、関数 15 前期試験 16 プログラム言語とマークアップ言語 17 再帰(階乗、フィボナッチ数列) 18 再帰(ハノイの塔) 19 データの探索・線形探索法 20 データの探索・二分探索法 21 データの探索・ハッシュ探索法 22 データの整列・選択法 23 データの整列・交換法(バブルソート) 24 データの整列・挿入法 25 クイックソート 26 素数を求める(エラトステネスの篩) 27 最大公約数を求める(ユークリッドの互除法) 28 文字列の探索 29 ビット演算 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	表計算実習	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業研修等にて基本・応用・資格対策講習に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	以下Excelの基本的な操作を、習得後に練習問題を交えながら実習形式で学習します。 ・データの入力、表作成・数式や基本的な関数を用いた計算、グラフ作成、データベース機能の操作 ・画像、図形、Smartartの挿入
到 達 目 標	パソコンの基本操作・日本語の文字入力や変換を身に着けた後、表計算ソフト「Excel」の基本的な表計算、グラフ作成、データベース機能の操作をしっかりと身につけ、2年次の応用につなげます。
教 科 書	よくわかる Microsoft Excel 2016 基礎(FOM出版)
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、Excelの基礎知識 2 データの入力と編集、範囲の選択、オートフィルの利用 3 練習問題 4 表の作成(数式の入力、関数の入力) 5 表の作成(罫線やセルの塗りつぶし等) 6 練習問題 7 データの表示形式、配置、フォントの設定 8 列や行の操作 9 練習問題 10 関数の入力方法、関数の利用 11 練習問題 12 相対参照と絶対参照 13 練習問題 14 練習問題 15 前期試験 16 複数シートの操作(シート名の変更、作業グループ) 17 複数シートの操作(シートの移動とコピー、シート間で集計、別シートのセル参照) 18 練習問題 19 表の印刷 20 練習問題 21 グラフの作成 22 練習問題 23 図形や画像の挿入 24 練習問題 25 データベースの利用 26 練習問題 27 検索と置換、PDFファイルとして保存 28 練習問題 29 練習問題 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験および課題の提出70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	ワープロ実習	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業等にて基本・応用・資格対策講習		

■授業科目情報

授 業 内 容	主に以下の内容を実習形式で学習します。 ・P検タイピング練習のサイトを使用して日本語の入力練習。 ・文字の入力から表や画像、図形、Smartartの文書への挿入等編集を行い文書を作成。
到 達 目 標	パソコンの基本操作・日本語の文字入力や変換をしっかりと身に着けた後、世界各国の企業、学校で標準的に使用されているワープロソフト「Word」で、今後に必要な不可欠な文書の作成、また日本語ビジネス文書の作成操作をしっかりと学んでいきます。 さらに、MOS Word2016資格取得の練習もします。
教 科 書	留学生のためのかんたんWord入門 MOS Word2016対策テキスト&問題集
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、パソコン操作と日本語入力の基本(学籍番号と名前(カナ)の入力) 2 MIKATYPEでローマ字入力練習、入力モードと日本語IME、ひらがなの入力と漢字変換 3 MIKATYPEでローマ字入力練習、単語の入力練習、文章の入力→文書の保存 4 P検タイピング練習、Wordの基本、簡単な文書作成→保存 5 P検タイピング練習、文字書式の設定 6 P検タイピング練習、段落書式の設定 7 P検タイピング練習、文書の入力と書式設定練習問題 8 P検タイピング練習、表の作成 9 P検タイピング練習、表の作成 10 P検タイピング練習、グラフィック要素1 11 P検タイピング練習、グラフィック要素2 12 P検タイピング練習、グラフィック要素3 13 P検タイピング練習、練習問題 14 P検タイピング練習、練習問題 15 試験実施 16 P検タイピング練習、前期の総復習→練習問題 17 P検タイピング練習、Smartart 18 P検タイピング練習、Smartart 19 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 20 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 21 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 22 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 23 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 24 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 25 P検タイピング練習、MOS-Word2016練習 26 P検タイピング練習、MOS-Word2016練習 27 P検タイピング練習、MOS-Word2016練習 28 試験実施(タイピング、MOS-Word2016模擬試験実施) 29 P検タイピング練習、ビジネス文書の作成 30 P検タイピング練習、ビジネス文書の作成
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点(課題の提出)＝前期30% 後期10% ③試験＝前期40% 後期60% ・上記3つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	C言語	授 業 方 法	講義・実習
年 度	2023年度	年 間 授 業 時 間 数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・C言語について文法からプログラム作成の基本までを講義・実習を通して学び、プログラミング作成能力を身につけます。プログラムの流れの分岐や繰り返し等を理解し、配列、ポインタ、構造体、共用体についての知識を習得します。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得 & 実践的なプログラミング能力の獲得を目指す。
教 科 書	入門C言語
年 間 授 業 計 画	1 まずは慣れよう1 2 まずは慣れよう2 3 演算と型1 4 演算と型2 5 プログラムの流れの分岐1 6 プログラムの流れの分岐2 7 プログラムの流れの繰り返し1 8 プログラムの流れの繰り返し2 9 配列1 10 配列2 11 関数1 12 関数2 13 基本型1 14 基本型2 15 前期総合復習課題演習 16 いろいろなプログラムを作ってみよう1 17 いろいろなプログラムを作ってみよう2 18 文字列の基本1 19 文字列の基本2 20 ポインタ1 21 ポインタ2 22 文字列とポインタ1 23 文字列とポインタ2 24 構造体1 25 構造体2 26 共用体1 27 共用体2 28 ファイル処理1 29 ファイル処理2 30 後期総合復習課題演習
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	総合日本語	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年間授業時間数	180時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 45コマ 後期 45コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 3回 後期 3回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:半井麻里 国内・国外の日本語学校非常勤講師及び通訳翻訳等に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本語能力試験JLPTのN3レベルの確認をしつつN2文法・漢字・語彙への導入と定着を図る。また、文化や習慣についてもトピック等を読みながら、発話や意見を促し総合的理解力を養う。
到 達 目 標	N3レベルの文法・漢字・語彙の定着から徐々にN2レベルへの理解と運用力の向上、継続力をつけることを目指す。
教 科 書	日本語総まとめN2文法・漢字・語彙、まるごと日本のことばと文化中級 I
年間授業計画	1 第1週1,2 2 第1週3,4 3 第1週5,6,7日まとめ問題 4 第2週1,2 5 第2週3,4 6 第2週5,6,7まとめ問題 7 第3週1,2 8 第3週3,4 9 第3週5,6,7まとめ問題 10 第4週1,2 11 第4週3,4 12 第4週5,6,7まとめ問題 13 復習第1週2週 14 復習第3週4週 15 前期試験 16 第5週1,2 17 第5週3,4 18 第5週5,6,7まとめ問題 19 第6週1,2 20 第6週3,4 21 第6週5,6,7まとめ問題 22 第7週1,2 23 第7週3,4 24 第7週5,6,7まとめ問題 25 第8週1,2 26 第8週3,4 27 第8週5,6,7まとめ問題 28 復習第5週6週 29 復習第7週8週 30 後期試験
成績評価方法	出席率30%、授業貢献度・20%、試験50%、全体で100点換算をして成績評価をする。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職等それぞれの進路へ向けて円滑な活動をできるように、さらに就職後に活躍できる人材になるために、一般常識の学習、業界研究、資格研究、履歴書の書き方、自己PR方法を習得する。手段として、「ビジネス能力検定3級」合格へ向けた学習も行う。
到 達 目 標	1.自己分析をしたうえで、自らの能力、意思について、適切に表現できる。 2.志望する業界、技術動向について、自ら調べることができる。 3.自分の意見を述べることができ、かつ、適切なコミュニケーションをすることができる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 自己分析 3 自己分析 4 業界研究 5 業界研究 6 資格研究 7 自己PR 8 志望動機探索 9 履歴書・エントリーシートの書き方 10 履歴書・エントリーシートの書き方 11 ビジネスとコミュニケーションの基本 12 ビジネスとコミュニケーションの基本 13 仕事の実践とビジネスツール 14 仕事の実践とビジネスツール 15 ビジネス用語の基本 16 情報処理技術者試験対策 17 情報処理技術者試験対策 18 情報処理技術者試験対策 19 情報処理技術者試験対策 20 ビジネス能力検定模擬試験 21 ビジネス能力検定模擬試験 22 ビジネス能力検定模擬試験 23 就職活動点検 24 ビジネスマナー実践 25 ビジネスマナー実践 26 コミュニケーション能力向上グループワーク 27 コミュニケーション能力向上グループワーク 28 身だしなみ 29 就職活動点検 30 後期まとめ
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験及び授業課題到達度70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	情報化と経営	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・基本情報技術者試験範囲(情報化と経営)及び簿記の基本を学習する。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得を目指す。
教 科 書	令和05年 栢木先生の基本情報技術者教室準拠 書き込み式ドリル
年 間 授 業 計 画	1 簿記の基礎 2 商品売買 3 現金預金 4 手形と電子記録債権(債務) 5 有形固定資産 6 その他の取引 7 帳簿 8 試算表 9 伝票と仕訳日計表 10 決算手続き1 11 決算手続き2 12 決算手続き3 13 ITサービスマネジメント 14 前期復習問題演習 15 企業活動の基礎知識 16 企業の会計業務 17 財務や会計処理に係る計算 18 分析手法とプロセス改善手法 19 経営戦略と経営分析 20 マーケティング戦略 21 ビジネス戦略と技術開発戦略 22 情報システム戦略とシステム活用 23 経営管理システム 24 エンジニアリングシステム 25 e-ビジネス 26 ソリューションビジネス 27 知的財産を守る法律 28 セキュリティを守る法律 29 労働関連・取引関連の法律 30 企業が負う法令遵守の責任
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	PCサポート実習(表計算実習)	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業研修等にて基本・応用・資格対策講習に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	1年次に「表計算実習」で学んだ基礎を踏まえ、さらに応用的な関数やグラフ作成、データ管理機能、データを効果的に見せる機能を学びます。
到 達 目 標	機能を知っているのみならず、さまざまな場面においてその機能を効果的に使いこなせるよう目指します。 MOS Excel2016、日商PC検定データ活用3級の合格レベルを目指します。
教 科 書	よくわかる Microsoft Excel 2016 応用(FOM出版) MOS Excel2016対策テキスト&問題集
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、Excelの基礎知識の復習(表作成と表計算、四則演算、表示形式) 2 Excelの基礎知識の復習(表作成と表計算、関数-SUM、AVERAGE、COUNT、COUNTA、 3 Excelの基礎知識の復習(相対参照と絶対参照) 4 Excelの基礎知識の復習(表計算問題) 5 Excelの基礎知識の復習(グラフ作成) 6 Excelの基礎知識の復習(データ管理) 7 Excelの基礎知識の復習(総合問題) 8 関数の利用(SUMIF関数、AVERAGEIF関数、COUNTIF関数) 9 ピボットテーブル 10 関数の利用(ROUND関数、ROUNDDOWN関数、ROUNDUP関数) 11 関数の利用(RANK.EQ関数、IF関数、IF関数のネスト) 12 関数の利用(TODAY関数、DATEDIF関数) 13 関数の利用(VLOOKUP関数、VLOOKUPとIF関数の組み合わせ) 14 日商PC検定3級問題練習 15 前期試験 16 表示形式 17 入力規則 18 シートの保護 19 複合グラフ、スパークライン 20 条件付き書式 21 集計 22 テーブル 23 ブックの検査(ドキュメント検査、アクセシビリティ検査、互換性のチェック) 24 MOS模擬試験問題 25 MOS模擬試験問題 26 MOS模擬試験問題 27 MOS模擬試験問題 28 MOS模擬試験問題 29 MOS模擬試験問題 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験および課題の提出70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	C言語	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年 間 授 業 時 間 数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。		

■授業科目情報

授 業 内 容	自ら処理の流れを設計、プログラミングできるようにするため、1年次の「C言語」「アルゴリズム」を土台として授業を実施する。 項目ごとに、教科書を用いた解説・サンプルプログラム、基本的な問題、発展的な問題演習を順番に実施することで、知識と能力を拡張できるように工夫する。
到 達 目 標	1. 基本的な開発の手順を理解し、実践できる。 2. 与えられた課題を適切に分解し、データとその処理の流れに置き換えて表現できる。 3. 問題を解く手順を、知っている手法と関係づけたり、または文献等で調べながらでも表現することができる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 1年次復習 2 入出力と演算子 3 入出力と演算子 4 入出力と演算子(ビット演算) 5 入出力と演算子(ビット演算) 6 処理の流れ 7 処理の流れ 8 関数 9 関数 10 配列 11 ポインタ 12 ポインタ 13 構造体 14 構造体 15 前期試験 16 構造体 17 リスト 18 リスト 19 共用体 20 共用体 21 列挙体 22 ファイル処理 23 ファイル処理 24 ファイル処理 25 標準関数 26 総合演習 27 総合演習 28 総合演習 29 総合演習 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	Java	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・JAVAプログラミング能力育成を行います。
到 達 目 標	・Java SE Bronze試験合格レベルのプログラミング能力達成。
教 科 書	スツキリわかるJava入門 第3版
年 間 授 業 計 画	1 実習環境説明・eclipse操作実習 2 JAVAプログラムの書き方 3 式と演算子 4 条件分岐と繰り返し 5 配列 6 メソッド 7 複数クラスを用いた開発 8 オブジェクト指向 9 インスタンスとクラス 10 さまざまなクラス機構 11 継承 12 高度な継承 13 多態性 14 カプセル化 15 前期総合復習課題 16 Javaを支える標準クラス 17 文字列と日付の扱い 18 Webサイトアクセスのまとめ 19 コレクション 20 ArrayListの使い方 21 LinkedListの使い方 22 Set関連のクラス 23 Mapの使い方 24 コレクションの応用 25 例外 26 総合演習1 27 総合演習2 28 総合演習3 29 総合演習4 30 総合演習5
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	インターネットホームページ制作	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:小山田 和枝 民間企業のプログラマーとして就職。電子部品の商社勤務。大学の非常勤講師、アプリケーションテキスト作成業務、東京都障害者就職支援学校 非常勤講師。MOS資格取得授業、コンピュータサービス技能評価試験指導などを担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	HTMLタグを中心とした、ホームページ作成の基礎知識やコンテンツの作成までの流れを習得し、理解する。(コンテンツの内容については、学生の進捗状況による) 画像データの加工処理、デザイン関連の課題を作成予定。 WIXサイトを利用したノーコードのWebサイトの作成、公開まで行う。		
到 達 目 標	HTMLの基礎を理解した上で、実際のWebサイトの運営までを目標としたい。 ITパスポート試験における過去問題をベースにした模擬試験にて、試験合格を目指してインターネットの仕組みについて学ぶ。 Webサイトの作成と公開・モバイルサイトの設定までを目標とする		
教 科 書	HTML ワークブック ステップ30		
年 間 授 業 計 画	- HTMLタグの理解 (サンプルページ、ソースの理解) - コンテンツの設計、作業の基本的な流れ - ファイル名と拡張子の理解 画像、イラストなどの素材利用時の説明 - タグの基本と改行 - 見出しと段落 文字の装飾 - 文字の書式と行揃え - HTMLにおける色指定 - 画像の利用 - 画像のサイズと文字の配置 - リンクの作成とパスの記述 - 特殊なリンクの作成 - BODYタグに指定できる属性 (Tパスポート過去問題演習) - TABLEの作成基礎 (Tパスポート過去問題演習) - 前期課題作成 - 前期試験・課題提出 - TABLEタグに指定できる属性 - Dタグに指定できる属性 - TABLEのグループ化とセルの結合・WEBサイトを利用したTABLE作成 - TABLEをレイアウトに利用する・TABLEをページレイアウトに利用する - フォームの作成・フレームの利用 - CSSを利用する - 文字書式のCSS・背景のCSS・サイズと余白のCSS (Tパスポート過去問題演習) - 枠線のCSS・CSSを利用したデザイン (Tパスポート過去問題演習) - CSSでレイヤーを作成する・課題作成 - WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 登録と使い方・テンプレートデザイン - WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 ページの構造と部品の追加 - WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 コンテンツの追加と編集 - WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 公開・SEOツール - WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 モバイルサイトのデザインへの設定変更 - 後期試験・課題提出		
成 績 評 価 方 法	①出席率 30% ②試験及び課題提出 70% 上記2項目の合計を100点満点とし、成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。		
備 考			

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	プレゼンテーション実習	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 浅川 順子 Microsoft office講師として自治体、専門学校で基礎から応用、資格取得授業を担当		

■授業科目情報

授 業 内 容	訴求力のあるスライドを作成し効果的なプレゼンテーションを行うため、プレゼンテーションの概念を理解し、Power Pointの基本操作から表やグラフ、図形、画像を取り入れる技法について学ぶ。 練習問題に取り組み繰り返し練習することにより操作をスムーズに行い、聞き手に直感的に理解してもらえるものを作る。
到 達 目 標	プレゼンテーションの概念・意義を理解し、Power Pointで発表者の考えをスムーズに正しく視覚化するための技術を身に付けること。「MOS PowerPoint 2016」を使ってMOS検定合格に向けてのカリキュラムも取り入れ、実践的な技術も習得すること。
教 科 書	よくわかるPowerPoint2016 MOS PowerPoint 2016
年 間 授 業 計 画	1 Power Pointの概要と基礎知識 2 Power Pointの基本をマスターする(画面構成、プレゼンテーションの作成) 3 プレイスホルダーの操作、新しいスライドの挿入、箇条書きテキストの入力・編集 4 プレゼンテーションの構成の変更(スライドの複製・入れ替え)スライドショーを実行・保存 5 第2章練習問題 6 表を作成、編集する 7 表に書式を設定、文字の配置の変更 8 第3章練習問題 9 グラフの作成、レイアウト変更、書式設定 10 グラフのもととなるデータの修正、グラフの種類の変更 11 第4章練習問題 12 図形の作成と編集、書式設定 13 前期課題作成 14 前期課題作成 15 前期試験 前期課題提出 16 Smartartグラフィックの作成、図形の追加と削除 17 SmartArtグラフィックの移動・サイズ変更、スタイルの適用、書式設定 18 箇条書きテキストをSmartArtに変換、SmartArtグラフィックのレイアウト変更 19 第5章練習問題 20 画像とワードアートの挿入と編集、第6章練習問題 21 アニメーションと画面切り替え効果の設定、第7章練習問題 22 プレゼンテーションに役立つ機能(ペンや蛍光ペンの利用、発表者ビュー、リハーサルの実 23 プレゼンテーションに役立つ機能(目的別スライドショーの作成)第8章練習問題 24 MOS検定対策 MOS PowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(練習モードにて説明①) 25 MOS検定対策 MOS PowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(練習モードにて説明②) 26 MOS検定対策 MOS PowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(本番モードにて 模試第1 27 MOS検定対策 MOS PowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(本番モードにて 模試第2 28 後期課題作成 29 後期課題作成 30 後期試験 後期課題提出
成 績 評 価 方 法	①出席率 30% ②平常点 30% ③試験及び課題作成 40% ・上記3項目の合計を100点満点とし、成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	ビジネスマナー	授 業 方 法	実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:西山百子 ホテル、航空会社勤務有 ビジネス実務マナー検定1級 サービス接客検定1級 ホテル実務検定ベーシック1級 日本語教師		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本で就職希望の留学生にとって必要なビジネス習慣、マナー、日本企業の仕組みなどを学んでいく。授業では単に知識を身に付けるのではなく、学生一人一人にとってどのように応用できるか、社会で生かせるか導いていく。
到 達 目 標	就職に役立つビジネスマナーの基本をしっかりと身につけ、日常的に実践できるようになる。 また就職活動のための準備も行う。
教 科 書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介 応用 職場での紹介 ビジネスマナーの基本(お辞儀、身だしなみ) 2 敬語 尊敬語 3 敬語 謙譲語 4 会社組織 部署名 役職名 5 訪問のマナー 6 就職活動用 ノート作成 7 自己PR 8 面接練習 9 ビジネスマナー①日本人と働く心構え 10 ②ウチとソトの関係 11 ③時間厳守・就業時間 12 ④報告・連絡・相談 13 ⑤クッション言葉 14 ⑥話を聞くととき、指示を受ける時 15 前期期末試験 16 ビジネス用語 17 ビジネスマナー⑦情報管理 ハラスメント 18 ⑧話し言葉と書き言葉 19 ビジネスマナー演習 電話応対① 20 電話応対② 伝言メモ作成 21 名刺の扱い方 席次 22 封筒、はがきの書き方 23 ビジネスメールの書き方① 24 ビジネスメールの書き方② 25 日本の文化、風習 26 冠婚葬祭 27 食事のマナー 28 贈答のマナー 29 全体総括 30 後期期末試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験及び平常点70% 上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	総合日本語	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:半井麻里 国内・国外の日本語学校勤務、通訳翻訳業務に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本語能力試験JLPTのN3の理解度を確認しつつ練習問題も行い、N2文法・漢字の定着と運用能力をつけていく。
到 達 目 標	N3合格からN2レベルに引き上げて、理解と応用力、授業への積極的参加を促していきたい。
教 科 書	Try日本語能力試験N2・日本語総まとめN2漢字
年間授業計画	1 漢字N2第1週1,2日 Try1 2 漢字N2第1週3,4日 Try1 3 漢字N2第1週5,6,7日まとめ問題 Try2 4 漢字N2第2週1,2日 Try2 5 漢字N2第2週3,4日 Try3 6 漢字N2第2週5,6,7日まとめ問題 Try3 7 第3週1,2日 Try4 8 第3週3,4日 Try4 9 第3週5,6,7日まとめ問題 Try5 10 第4週1,2日 Try5 11 第4週3,4日 Try6 12 第4週5,6,7日まとめ問題 Try6 13 漢字復習第1,2週 Try1,2復習 14 漢字復習第3,4週 Try3,4復習 15 漢字復習 Try5,6復習 16 復習 17 前期試験 18 第5週1,2日 Try7 19 第5週3,4日 Try7 20 第5週5,6,7日まとめ問題 Try8 21 第6週1,2日 Try8 22 第6週3,4日 Try9 23 第6週5,6,7日まとめ問題 Try9 24 第7週1,2日 Try10 25 第7週3,4日 Try10 26 第7週5,6,7日まとめ問題 Try11 27 第8週1,2日 Try11 28 第8週3,4日 Try12 29 第8週5,6,7日まとめ問題 Try12 30 総合問題
成 績 評 価 方 法	出席率30%、試験50%、授業貢献度30%、合計100点満点で成績評価をする。宿題はまとめ問題から出すこともあり、提出状況も鑑みる。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	日本語ライティング	授 業 方 法	講義
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 半井麻里 国内・国外の日本語学校非常勤講師及び通訳翻訳業に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職活動を円滑に進めるためのライティングの授業。導入から実際に書くことに重点を置く。
到 達 目 標	将来的に就職に結びつくよう、自己アピールのパートナーに慣れどんな場面でも自信が持てるようになることを図る。
教 科 書	伸ばす就職能力ビジネス日本語・日本で働くための本
年間授業計画	1 就活ビジネスⅡ 2 就活ビジネスⅡ 3 就活ビジネスⅡ 4 就活ビジネスⅡ 5 就活ビジネスⅢ 6 就活ビジネスⅢ 7 就活ビジネスⅣ 8 就活ビジネスⅣ 9 就活ビジネスⅣ 10 就活ビジネスⅣ 11 就活ビジネスⅤ 12 就活ビジネスⅤ 13 就活ビジネスⅤ 14 総復習 15 前期試験 16 日本で働くための本1章 17 日本で働くための本1章 18 日本で働くための本1章 19 日本で働くための本1章 20 日本で働くための本2章 21 日本で働くための本2章 22 日本で働くための本2章 23 日本で働くための本2章 24 日本で働くための本3章 25 日本で働くための本3章 26 日本で働くための本3章 27 日本で働くための本4章 28 日本で働くための本5章 29 総復習 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席率30%、試験50%、提出や授業内貢献度20%を合計して100点換算し成績評価を決定する。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	情報セキュリティ	授 業 方 法	講義・実習
年 度	2023年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	情報漏洩、ランサムウェアなどに関するニュースや身近に潜むリスクを、情報セキュリティの知識を持って自ら分析するために、企業の情報資産に対するサイバー攻撃や情報漏洩の脅威を学び、保護すべき対象のセキュリティを確保するしくみを学ぶ。本年度は、Linux、Python等を用いた実習を取り入れる。
到 達 目 標	1.情報セキュリティの定義・管理対象を列挙できる。 2.情報セキュリティにおける脅威を具体的に説明でき、一般化することができる。 3.情報セキュリティにおける対策を自らも、そして組織内でコミュニケーションをとりながら実践できる。
教 科 書	令和04年 ITパスポートの新よくわかる教科書(技術評論社)
年 間 授 業 計 画	1 Linux環境 簡単なコマンド操作 2 Python 四則演算 3 Python 文字列処理 4 Python リスト・タプル 5 Python 辞書・集合・組み込み型 6 Python 演習 セキュリティ 共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式 7 Python 演習 認証 8 Python 分岐 9 Python 繰り返し 10 Python 関数 11 Python クラス 12 Python クラス 13 Python クラス 14 Python モジュール・パッケージ 15 前期試験 16 Python 入出力 17 Python 問題演習 18 Python 問題演習 19 マルウェア 20 フィッシング 21 標的型攻撃 22 Webサイトへの攻撃 23 Webサイト利用者への攻撃 24 暗号方式 25 利用者認証 26 メッセージ認証 27 デジタル署名 28 ネットワークセキュリティ 29 セキュリティ関連法規 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	受講者の理解や演習の進捗状況により、授業内容や進度を変更することがある。